（詩３ッ）露古

群青と金

群青の空は
のっぺりと
つっぺりと

金雲の中では人殺しがわめいている
死にたくないと

らでい！

少年がおずおずと差し出した石板の上でウサギが踊っている
らでい、だった、らでい
らでい、だった、らでい
ふん、
私はそいつを鼻で笑う
らでい、だった、らでい
さあ！石板を割ってやれ

明け

柔らかな吐息の中で私には乳色の花が見えていた
皆一様に伏し目がちで頬に慎み深い笑みを湛えている

あなたのいない場所であなたの話をした
もう明けるのだ
ならば賢者の寝息のごとく
「明けよ」